



夢の本棚

発行所：松居直コレクションプロジェクト
 代表：金戸 美紀子
 事務局：石川県小松市 小馬出町10-3
 空とこども絵本館
 ☎ 0761-23-0033
 bookrin@city.komatsu.lg.jp

【活動方針】①絵本の楽しさを伝える <親子読書の奨励> ②絵本の歴史を学び、進むべき方向を考える <絵本文化の研究>
 ③市が所有する知的財産として、次世代に正しく伝える <絵本文化の継承>

石井桃子から学ぶ ⑦ 絵本の文化

閉じた時に音がする

◆私は、日本少国民文庫で最高に印象的だったのは、内容のことでなく、「本を読んでもしまつて最後にパタッと閉じた時に音がする」ことを発見したんです。◆本は音がするんですよ。これ全部、音が違いますが、1冊ずつ。ペーパーバックは駄目です。ハードカバーでないとい音はしません。絵本でもしますよ。みんな違います。絵本は匂いがあります。昔は、印刷インクの匂いだとか製本の匂いだとか。

手を使ってめくる

◆もう一つ本で、子どもの時にとっても体験して、その時理屈は分かりませんが、今「本は手を使ってページをめくる」ってこと、今はそれがどれほど大切なことかって、私は



思います。絵本は特にそうです。絵本は子どもによつて、読んでる時にページのめくり方が違います。速くめくるの、遅くめくるの、元へ戻る、立ち止まる、いろいろなことが出来ますよ◆手を使ってページをめくるってことは、読む人が演出してるんです。自分で演出家になるんです。で、前に読んだ時と後で読んだ時と、ページのめくり方が違うこともしょっちゅうあります◆これ、アニメーションはできませんよ。全然違う文化なんです。アニメーションの面白さがある。本は本の面白さがある。内容が同じであっても、物語であつても違うんです。そのいろんな面白さを知ってるってこ

仕事は手と足で

◆ですが、子どもたちもたつと豊かなくなるともいえます。紙芝居も違うんです。とが、子どもにとつても、紙芝居も違うんです。◆ですが、子どもたちが手を使って本を読むという行為、このことを大切にしたい。人間は、仕事をやる時に手を使わなくなったら、もうおしまいです。手を使つて、私は「だいたい仕事するのは、手と足でやるもんだ」と思ってますから、頭でやるもんだと思つてません◆だから、編集者が机に座つたりしてると、「一体、いつまで机に座つてるの」と私は言います。「歩いたらどうなの。犬も歩けば棒に当たるって言うじゃないの」って。「展示会でも見て来いよ」って言うことです◆どんどんどんどん人に会つて、歩かないと駄目。そんな机の前で仕事してるんでは、これは編集、ほんとのエディター

にはなれませんが◆子どもたちが「自分の手で本を読む」と「めくる」と。特に、絵本がそのことを知らせるわけですから。これは「絵本の文化」です。◆丸谷才一さんが1974年に『日本語のために』という本を新潮社からお出しになりました◆ご自分のお子さんに、毎月本を読んでもらうしやる。『子どものとも』の気に食わないところは、直して読んでやる。絵本をちゃんと文章を吟味して、子どもに読んでやってくださる◆その中でただ1冊だけ、全然大丈夫に朱を入れた。瀬田貞二の『おだんごぱん』である、と書いてあった。



◆丸谷才一さんが1974年に『日本語のために』という本を新潮社からお出しになりました◆ご自分のお子さんに、毎月本を読んでもらうしやる。『子どものとも』の気に食わないところは、直して読んでやる。絵本をちゃんと文章を吟味して、子どもに読んでやってくださる◆その中でただ1冊だけ、全然大丈夫に朱を入れた。瀬田貞二の『おだんごぱん』である、と書いてあった。

新しいテキストの時代を開く

◆渡辺茂男さんの最初の本が『とらっくとらっく』。ほんとに渡辺茂男さんは、アメリカの図書館でストーリーテリングを徹底的に学ばれた方です。ニューヨークのパブリックライブラリー◆これほんとに、日本の今まで、その時の作家の人には書けないような文体で書いてあるんです。見事な、ほんとにとらっくが走つてるような文体がピタッと出てくる。これは、ストーリーテリングをやっている人だからできたんです◆こっちはそうぞうです。



『しゅうぼうじどうしゃしふた』。だから、新しい絵本のテキストの時代が、この頃から開けてくる。(つづく)